

ワンパーセント

イオン1%クラブ



収穫したにんじんを手に記念撮影(イオンチアーズクラブ「ウエルシアつくば」)



大きなにんじんが採れて大喜び。

土の匂い、野菜の手触り 心が育つていきます

イオンチアーズクラブは

自然や環境などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に、全国420店舗を拠点に体験学習を行っています。各クラブは「環境・社会」に関する独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。毎年2月から、9つのエリアで壁新聞の発表大会が行われ、上位に入賞したクラブは、全国大会に出場しています。

イオンチアーズクラブご入会フォーム

イオンチアーズクラブに入会をご希望の方は、こちらのQRコードをスマートフォン等で読み取り、新規登録フォームから申請をお願いします。
<https://aeon1p.or.jp/aeoncheersclub/ja/register>



2022年9月、茨城県つくば市内のウエルシア薬局22店舗と協力し、イオンチアーズクラブ「ウエルシアつくば」が誕生しました。35名の小学生がメンバーになり、これまで3回の活動を実施しています。最初の頃は人見知りをしていた子どもたちも、自ら進んで話しかけられるようになりました。

第3回の活動は11月13日、つくば市の農場でにんじんの収穫に子どもたちが挑戦しました。はじめに、にんじんに多く含まれる栄養素などについて説明が行われ、話に聴き入る子どもたちの真剣な眼差しが印象的でした。

いよいよ畑に移動して収穫開始。土の中から色鮮やかなにんじんが現れると、「抜けた、抜けた！」



説明を聴く
真剣な眼差し。



にんじんの栄養素について紙芝居で説明。



今まで体験したことのない
甘さ。



みんなで掘った採れたての
にんじん。

News

イオンチアーズクラブ 「ウエルシアつくば」が活動を開始



茨城県つくば市内のウエルシア薬局22店舗との連携により、2022年秋、新たに仲間に加わることとなったイオンチアーズクラブ「ウエルシアつくば」。

9月に行われた開会式には新メンバー22名の小学生とそのご家族が参加。つくば市郊外にある武平ファームで、第1回の活動「美味しく食べて元気な身体づくり」に臨みました。鎌による本格的な稲刈り体験のあと、お米の栄養について学習しました。また土鍋で炊いたご飯を使って「薬膳カレー作り」にも挑戦。子どもたちの笑顔と歓声が弾けていました。

第2回（10月開催）はウエルシア調剤薬局での「子ども薬剤師体験会」。2チームに分かれて薬剤師の仕事について学んだあと、白衣に着がえた子どもたちが模擬実技（お菓子をを用いての薬づくり）に挑戦。“ホンモノの仕事”を肌で体感する子どもたち。未来を見つめる真剣な眼がキラキラ輝いていました。

“ドラッグストア初”のイオンチアーズクラブ「ウエルシアつくば」の活動にご期待ください！



初めて抜いたにんじんに大満足。

「こっちのほうがかいぞ」など、あちこちで歓声が沸き上がりました。
採れたてのにんじんを食べてみると、想像以上に糖度が高く「あまい」「もつとちようだい」など、子どもたちに大人気でした。今後もイオンチアーズクラブは、様々な活動を展開してまいります。



中学生 作文コンクール

考えをまとめ、書く力を養う



金賞受賞者代表による作文の朗読。



イオンワンパーセントクラブ理事長から
表彰状を授与。



中学生作文コンクールは

中学生が、社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年から実施しています。金賞に選ばれた10名の中学生の皆さんを東京で行われる1泊2日の食育ツアーにご招待しています。さらに金賞の作品は、中学生向けの新聞にも掲載されます。

中学生ならではの視点と 発想力が光りました



上／銀座のビルの屋上で養蜂
(画像提供：銀座ミツバチプロジェクト)。
下／各自で考えた献立を発表。

第20回「中学生作文コンクール」では、身近な「食」に着目し、「食べ物から考える地球温暖化」をテーマに作文を募集。様々な観点からテーマを真剣にとらえ、事実に基づいた出来事が描写された秀作が、全国から数多く寄せられました。

去る11月、東京にて表彰式を開催し、全国各地から金賞を受賞された8名の中学生が参加。表彰状授与のあと、受賞者代表として3人の生徒に作文を朗読していただきました。入賞作品は朝日中高生新聞に掲載されます。

式の終了後は、1泊2日の「食育ツアー」を開催。都心のビルの「屋上養蜂場」を視察しました。50万匹のミツバチを飼育し、年間1・6トン

ものはちみつが収穫できることに中学生も驚きを隠せない様子でした。この他、環境負荷の少ない大豆ミートやコオロギを原料としたお菓子の試食など「食と環境」について実地学習を行いました。

ツアーの最後には、環境に配慮した給食の献立についてディスカッションを行い、発表。旬の食材の利用や地産地消を考慮するなど、選定理由も様々でした。



ご家族と一緒に
記念撮影。



高校生エコワンングランプリ

仲間と取り組んだ、環境活動を発表



内閣総理大臣賞受賞校の発表者(左／三重県立明野高等学校 右／愛媛大学附属高等学校)。



イオンワンパーセントクラブ理事長、森美樹氏よりご挨拶。



質疑応答の様子。

エコワンングランプリは

高校生が日ごろ学校で取り組んでいる環境活動について発表を行い、表現力や発信力が向上することを目指して、2012年より開催しています。内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞など各賞の表彰を行い、受賞校に賞状と活動奨励金を授与しています。

左／生分解性プラスチック開発実験の様子(愛媛大学附属高等学校)。右／エコフィードを製造する様子(三重県立明野高等学校)。



地球環境の改善に
独創的なアイデアで挑みます

2022年12月3日、第11回「エコワンングランプリ」の最終審査会が都内で行われ、2次審査を通過した12校が出場しました。どの高校も、強い熱意をもって環境問題に

向き合い、身近な課題の解決に取り組んでいる様子が伝わる発表でした。内閣総理大臣賞(2校)、文部科学大臣賞、環境大臣賞、イオンワンパーセントクラブ賞、審査員特別賞に6校が選ばれ賞状と活動奨励金が授与されました。

普及部門で内閣総理大臣賞に輝いた三重県立明野高等学校は「エコフィードで地域にあかりを! 持続可能な畜産モデルの普及活動」と題し、地域で飼料に利用できるモルト粕などを食品循環資源として収集し、新たな飼料の製造に取り組みました。輸送にかかる温室効果ガスの削減や飼料費削減に成功し、県内初となるエコフィード認証を取得したことが評価されました。

一方、専門部門での内閣総理大臣賞は愛媛大学附属高等学校が受賞。「海洋プラスチック汚染の実態調査と解決へ向けての活動」をテーマに、プラスチックごみにならない生分解性プラスチック素材の製法を研究し、そのコストダウンに成功。さらに研究成果の情報発信と啓発活動に取り組んでいます。

高校生たちの素晴らしい活動が地球環境問題の改善に繋がることが期待しています。



認定証を手に記念撮影をする
日本に留学中の奨学生。



イオンスカラシップ（奨学金制度） 日本と母国の架け橋を目指す アジア各国の大学生を応援

イオンスカラシップ(奨学金制度)は

アジアの大学生を対象に、日本と母国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと実施しています。授業料と生活費を両方支給している他、奨学生同士の交流や宿泊研修カリキュラム、ボランティア活動などを行っています。



雨の合間に苗木を植える奨学生。



上／ホワイトボード
を使って議論する学
生。
下／8チームに分かれ
てディスカッション
を実施。



イオンスカラシップ事業では、奨学生同士が交流を深め、環境活動や日本文化の体験を通して視野を広げていただくことを目的に、毎年3回のセミナーを開催しています。今回は、「サステナビリティ（持続可能性）」をテーマに開催し、国籍や大学が異なる43名の学生が、2022年11月26日と27日の2日にわたって参加しました。

1日目の朝は千葉県沼海浜公園にて海岸防災林再生のための植樹活動を行いました。あいにくの

未来のために「木を植える」
学生たちの夢を託して…

各国で奨学生の認定が行われています



大雨で一瞬雨が止んだ短い時間でしたが、学生たちは苗木を一本ずつ丁寧に植えました。午後は千葉県内の研修施設に移動し、8チームに分かれてディスカッションを実施。「2050年にどんなサステナブルな未来を実現しているか？」をテーマに、熱い議論が交わされました。発表では、科学技術の発展によ

り、今よりも安くて環境負荷の少ないエネルギーの開発や培養肉の普及が進むとの予想が出されました。翌日は千葉の郷土料理「太巻き祭りずしづくり」を体験。「地元食材の活用で環境負荷を低減できる」「地産地消について学びました。初めてのずしづくりとそのおいしさに、学生たちは大喜びでした。



上／認定証を手に記念撮影をするインドネシア大学とボゴール農科大学の学生（インドネシア）。

左下／式典の様子（ベトナム）。

右下／「私の夢」をスピーチ（中国）。



首里城復興支援

“首里城を再び”と願う
すべての人々の心とともに

正殿の復元に使用される木材の前で、沖縄伝統の踊りに挑戦するイオンチアーズクラブのメンバー。



焼失前の首里城正殿。



左／首里城で使用されていた木を使ってコースター作りに挑戦。
下／完成した作品。



右から玉城デニー沖縄県知事、イオンワンパーセントクラブ事務局長本田陽生。沖縄県庁で行われた復興支援金1億円贈呈式にて。

イオンワンパーセントクラブは、大規模災害により被災した方々が、日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、緊急支援金の贈呈などを行い、被災地の復旧・復興などを支援しています。

復興支援活動の内容が 新たな段階を迎えました

イオンワンパーセントクラブは、2019年10月末の首里城火災直後に、向こう5年間で5億円を寄付することを表明し、今年も1億円を寄付しました。

2022年秋、いよいよ正殿の復元工事が始まることから、琉球王国時代から首里城造営・修復の際に行われて来た伝統祭事である「木曳式(こびきしき)」に倣い、10月29日(土)から11月3日(木)まで復興記念イベントが行われました。復元に使用するため、県の北部から

切り出された木材が運ばれる際、行われる沖縄伝統の踊りにイオンチアーズクラブのメンバーが挑戦したほか、首里城の木材を再利用した木工体験のワークショップを、那覇市近郊のショッピングモールで開催しました。

さらに、子どもたちができる支援として、沖縄の人々を元気づけ、一緒に応援しているという気持ち伝わることを願い、「イオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール」を開催。復興記念イベントの期間中、首里城を描いた作品の中から入賞した169作品を全国から集めて展示し、最終日の11月3日(木)、首里城公園内の首里杜館(すいむいかん)前広場で表彰式を行いました。



「イオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール」の最優秀賞作品(上)と表彰式に参加した沖縄のイオンチアーズクラブメンバー。

イオンチアーズクラブ・メンバー募集中

◎どんな活動をしますか？

「自然観察」「農業体験」などを通して、みんなで楽しみながら学びます。

◎どんな人たちが参加していますか？

主に小学生です。

◎いつ、どこで活動していますか？

学校が休みの日に、山、海、川、田んぼ、畑などで活動します。

◎お金はかかりますか？

入会金・年会費はございません。

イオンチアーズクラブご入会フォーム

入会をご希望の方は、こちらのQRコードをスマートフォン等で読み取り、新規登録フォームから申請をお願いします。

<https://aeon1p.or.jp/aeoncheersclub/ja/register>



お問合せ

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

1p@aeon.info ☎043-212-6023 (平日10時～17時)



ご挨拶

イオンワンパーセントクラブは、「平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念を具体的な行動に表すため、1990年に設立されました。

小学生を中心に自然や環境について体験学習を行う「イオンチアーズクラブ」や、社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養う「中学生作文コンクール」、日ごろ学校で取り組んでいる環境活動について発表し、表現力や発信力の向上を目指す「高校生エコワングランプリ」、日本と母国との架け橋となり、活躍することを目指すアジアの大学生を支援する奨学金「イオンスカラシップ」など、それぞれの国や地域で子どもたちの成長に合わせた、育成を目指して事業活動を実施しています。その内容について、日ごろからご支援をいただいている皆さまにご理解をいただきたく、活動の一端をご紹介します。

子どもたちがさまざまな体験をし、文化や価値観の異なる多くの人々と触れ合うことで、平和な社会の担い手に育つことを願い、イオンワンパーセントクラブはこれからも努力を重ねてまいります。何卒、皆さまのご支援とご指導をいただけますようお願い申し上げます。



公益財団法人
イオンワンパーセントクラブ 理事長

森 美樹

公益財団法人 ワンパーセント イオン1%クラブ

発行元：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1丁目5番地1

☎043-212-6023 ✉1p@aeon.info

こちらのQRコードをスマートフォン等で読み取ると
当財団の活動の詳細をご覧いただけます。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

